

＜第1回 横浜市文化財施設のあり方検討委員会 議事録＞

日時	平成23年6月20日（月）15時00分～17時30分
場所	横浜開港資料館 講堂
開催形態	公開（施設見学は非公開）
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 澤野由紀子（聖心女子大学文学部教授）、嶋田昌子（横浜シティガイド協会副会長）、 末崎真澄（（財）馬事文化財団理事・馬の博物館学芸部長）、 鈴木真理（青山学院大学教育人間科学部教授）、長島由佳（横浜市PTA連絡協議会会長）、 西野公晴（中小企業診断士）、桧森隆一（嘉悦大学経営経済学部教授・副学長）、 平川南（国立歴史民俗博物館館長）、吉田鋼市（横浜国立大学大学院教授） 欠席：永池啓子（横浜市立小学校長会代表）</p> <p>【事務局】 山田（横浜市教育委員会教育長）、鈴木（生涯学習担当部長）、中田（生涯学習文化財課長）、 重松（文化財係長）、天野（文化財係職員）、</p> <p>【公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団】 高村（理事長）、金子（副理事長）、竹前（事務局長）、西川（担当部長・開港資料館副館長）、 井上（ユーラシア文化館副館長）、村井（外部理事） オブザーバー6名</p> <p>【コンサルタント】 山路商事（株） 山路、田代</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長・副委員長の選出 2 委員会の目的・趣旨、スケジュール、進め方について 3 文化財施設の主な現状・課題について 4 施設視察（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館） 5 意見交換等 6 その他
資料	資料1 委員名簿 資料2 横浜市文化財施設のあり方検討委員会の進め方について 資料3 横浜市文化財施設のあり方検討委員会設置要綱 資料4 「横浜市外郭団体等経営改革委員会」会議資料 資料5 「横浜市外郭団体等経営改革委員会」提言 資料6 経営改革に関する方針 資料7 施設概要 資料8 施設の主な現状・課題 資料9 団体概要 資料10 財団組織図 資料11 施設の利用者等事業実績推移 資料12 文化財施設条例・施行規則

<事前確認>

生涯学習文化財課長より以下の事前確認があった。

- ・委嘱状と配布資料の確認。
- ・「横浜市文化財施設のあり方検討委員会設置要綱」の内容。(資料3)

<横浜市教育委員会教育長挨拶>

横浜市教育委員会教育長から、本委員会設置に至る経緯と趣旨を中心に挨拶があった。

- ・横浜市の外郭団体の見直しとして、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団（指定管理者）が所管している文化財施設（特に横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館）について、経営面で今後の方向性を明確にすることが求められたことを受け、当検討委員会が設置された。
- ・経営面からだけでなく、歴史的専門性や公共性、利便性も踏まえてご検討頂きたい。
- ・当検討委員会で検討された結果を踏まえて文化財施設のあり方を見直し、より多くの市民の方に利用して頂き、歴史や文化についてより一層理解を深めて頂けるような施設としていきたい。

<出席者自己紹介>

検討委員及び事務局、指定管理者から自己紹介があった。(以下検討委員のみ記載)

- ・澤野由紀子氏＝比較教育学を専門としている。
- ・嶋田昌子氏＝横浜シティガイド協会副代表を務めている。
- ・末崎真澄氏＝馬学を専門としている。
- ・鈴木真理氏＝社会教育を専門としている。横浜美術館設立時の調査に携わった。
- ・長島由佳氏＝子どもたちが利用する施設の保護者という見方で参加させて頂く。
- ・西野公晴氏＝中小企業診断士という国家資格有資格者であるとともに、横浜市の地区センター等の指定管理者の選定委員を務めている。
- ・桧森隆一氏＝文化政策、アートマネジメントを専門としている。
- ・平川南氏＝各地の博物館に携わっており、他の施設事例からも意見を申し上げるつもりである。
- ・吉田鋼市氏＝建築史を専門としている。

ここで横浜市教育委員会教育長は退席。

■主な議事内容

1 委員長・副委員長（委員長代理）の選出

(事務局)

- ・資料3「検討委員会設置要綱第4条1項」により、委員会に委員長を1名置き、委員の互選によりこれを定めることとする。委員の皆様から意見や推薦はあるか。

→委員からの意見や推薦はなし。

- ・特になければ、事務局より推薦させて頂くこととする。事務局としては横浜市文化財保護審議会副会長としての横浜の文化財行政全般に精通されている、吉田委員にお願いしたいと考えている。

→委員一同異議なし。吉田委員了承。

- ・それでは、吉田委員に委員長をお願いすることとする。
- ・続いて、同条3項により、委員長に委員長代理を指名して頂くこととする。

(吉田委員長)

- ・今後の検討にあたっては、社会教育や生涯学習の視点も大切と考えるため、神奈川県社会教育委員連絡協議会会長の鈴木委員にお願いしたい。

→鈴木委員了承。

<吉田委員長挨拶>

- ・近年は文化財施設も大学も財政的な聖域ではなくなってきた。経営面ばかりを議論する訳ではないが、何もしない訳にはいかないと考える。
- ・私が委員長に選出されたのは、長年、横浜市に係わる仕事をしてきたためであろう。できる限り努めるつもりなので、よろしくお願いしたい。

2 委員会の目的・趣旨、スケジュール、進め方について

事務局より、資料2を用いて説明がなされた。

<質疑応答>

(委員長)

- ・資料2「1 前提事項」は、何を根拠に書いたものか。
- 資料5 (P.18)「経営改革の方向性①」による。(事務局)

(桧森委員)

- ・「経営改革の方向性②」について、当検討委員会の検討に含まれるのか。
- 当検討委員会では、主として「経営改革の方向性①」について検討をお願いしたい。(事務局)

→議論の流れの中で「経営改革の方向性②」について出されても構わないと思うが。(委員長)

→結構である。4館併せて全般的な議論をお願いしたい。(事務局)

3 文化財施設の主な現状・課題について

事務局より、資料7・8を用いて説明がなされた。

<質疑応答>

(平川委員)

- ・資料7において、「理念」が最も重要であるが、「理念」と「事業内容」に記載されている内容が逆ではないか。

→「理念」と「事業内容」について、事務局で再度精査した上で、今後検討していく。(吉田委員長)

→理念等の部分については、多々の資料から抜き出したもので、確かに内容とタイトルが整合していない。次回までに整理し直す。(生涯学習担当部長)

(平川委員)

- ・全国的に見た場合、歴史民俗系博物館の館数は増加しているにも関わらず、来場者数は減少している。横浜の文化財施設だけが来場者数が減少しているわけではなく、市民に横浜市の施設だけが減っているような誤解を与えないようにすべきである。

・全国的な動向がわかるよう、横浜市以外の現状データを提示して頂きたい。

(吉田委員長)

・横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館は同じ建物内にあるが、来館者数のカウントはどの様に行っているのか。

→各フロアに入口があり、そこで区別している。常設展と企画展も区別できていることになっている。(生涯学習担当部長)

→資料 11「常設展観覧者数の推移」グラフにおいて、横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館はほぼ同じであるが、来場者は双方に必ず立ち寄るのか。(鈴木委員)

→企画展のチケットは、横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館の常設展にも入場することができる。よって1人の企画展への来場者は、建物全体で3人とトリプルカウントされるが、ここにある数字は券を購入した数が基本になっている。(生涯学習担当部長)

(桧森委員)

・資料 2「5 (2) 費用対効果を検証する視点」とあるが、この「効果」とは何かを明確にする必要がある。資料 7「理念」が実現できたかどうかで効果が評価される。そのためには、資料 7「理念」も明確化する必要がある。

→「理念」について再度整理しなおし、次回検討委員会にて提示する。(事務局)

(吉田委員長)

・費用についての資料はないのか。

→費用について、次回検討委員会にて提示する。(事務局)

(鈴木委員)

・学芸員(専門員)についての資料も提示して頂きたい。一生懸命やっている部分も出してほしい。

→学芸員(専門員)について、次回検討委員会にて提示する。(生涯学習担当部長)

(鈴木委員)

・各館は法制度ではどう位置付けられているのか。

→資料 12 では「文化財指定管理施設条例・施行規則」を提示しているが、次回検討会にて詳しい情報を提示する。(事務局)

→4館とも博物館法の博物館ではない。博物館類似施設という位置付けである。当時の博物館法では、設置者と運営者が同じでなければ登録できなかった。市が設置した博物館は市が運営しなければならなかった。現在は指定管理者制度があり、市が設置し他の団体が運営しても登録博物館になり得る場合もある。しかし、メリットがないため、あえて登録博物館の申請はしていない。(生涯学習担当部長)

→現場ではそういうが、始めから登録を否定するのはどうか。(鈴木委員)

(西野委員)

・利用者の増加策を検討する場合、民間のマーケティングの立場からすると、現在の来館者がどこで知ったか、何を見て知ったかを調査分析する。また、港の地域にある類似施設や観光施設の来場者数も調査する必要がある。

→周辺施設の来館者数については、可能な範囲で調査し提示してほしい。(吉田委員長)

→どこで情報を知ったか、何を見て知ったかについては、博物館でアンケートを実施し

たデータがあるので、次回検討会にて提示する。(財団)

4 施設視察

【横浜開港資料館】

横浜開港資料館副館長西川氏による説明があった。

- ・江戸、明治、大正期の資料を収蔵している。
- ・中庭に吉田新田開墾からペリー来航まで、7枚のパネルを本年6月に増設した。
- ・現在、約25万点が収蔵されており、その内、横浜に住んでいた方が書いた日記や絵等、約10万点が寄贈されたもので、地域型博物館とも言えるだろう。
- ・横浜に関わる資料に限らず、全国各地の資料も収集している。
- ・企画展を年4回開催している。来場者数は内容により異なるが、現在開催している「たまくすの木が見た横浜の157年」では、多い時に600名/月もの来場者がある。
- ・常設展において、再来場者を得るためにはリニューアルが必要だが、困難な状況である。
- ・収蔵資料の内、約3万点は外部倉庫に保管している。(収蔵機能の限界)
- ・常設展や企画展の他に、地階の閲覧室では資料の閲覧や館員によるレファレンスサービス等を行っており、人手不足である。現在、学術系職員は7名。
- ・横浜都市発展記念館との連携をより図っていきたい。

【横浜都市発展記念館】

横浜都市発展記念館青木氏による説明があった。

- ・3つのテーマ「都市形成」、「市民の暮らし」、「ヨコハマ文化」で展示している。
- ・企画展示室が使用できない時期(横浜ユーラシア文化館が利用時)は、新しい資料を用いてコーナー展示を年4回開催している。また、コーナー展に合わせて、職員が各テーマで常設展示室を案内している。
- ・連続講座として、一つの大きなテーマを複数の職員が案内することも企画している。
- ・中庭に面した壁面を利用し、展示面積の増設を検討している。
- ・横浜開港資料館の次回企画展「昭和30年代の写真展」に合わせ、横浜都市発展記念館でも昭和30年代の写真展を開催し、相乗効果を期待している。
- ・展示面積が狭小で学校団体利用が少ないことの改善策として、小学校4年生を対象に吉田新田がどの様に市街地化して現在のまちができたかを学べる展示を企画している。

【企画展示室】

- ・横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館で、年4回企画展示を開催している。
- ・来年度以降は開港資料館や市史資料室と連携して、各施設の個性が明確になるような展示テーマを検討している。

【横浜ユーラシア文化館】

横浜ユーラシア文化館副館長井上氏による説明があった。

- ・江上波夫氏から寄贈された資料中心に、5つのテーマ「砂漠と草原」、「色と形」、「技」、「装う」、「伝える」で展示を行っている。(収蔵資料は約3万点)
- ・平成15年の開館当時は来場者が伸びたが、ここ2~3年は減少傾向にある。
- ・国際文化都市横浜にふさわしい施設だと自負している。現在は日本関連の資料が少な

いため、今後は日本関連の資料も取り入れていきたい。

- ・小学3年生を対象に、生活風俗的価値のある資料を活用し、自分たちの身近な生活道具と似たものを探しながら自分たちの生活ルーツがユーラシアにあることに気づいてもらう企画や、小学4年生を対象に、横浜都市発展記念館と連携して、吉田新田開墾からアジアの田んぼやユーラシアの埋め立てについて学ぶ企画を予定している。
- ・横浜市の全小学校全学年では、国際理解教室を持っている。次回企画展は横浜ユーラシア文化館がフィリピンの文化を紹介する展示を開催するが、今年度フィリピンの文化を扱う学校は22校ある。その22校については、是非来場して頂き、展示資料を教材とし、展示室を教室として活用して頂けるよう話を進めている。
- ・財団職員には、ユーラシアと日本に関する交流史、文化比較史を専門としている職員がいる。今後は、その職員がいる施設等とも連携し日本とユーラシアの関係を深めるようなテーマ設定、活動へ拡げていきたい。

【1階エントランス】

- ・スペースを拡大（間仕切り壁の撤去）し、継続的な学校団体利用やコミュニティ利用、異文化交流の場として役立てる計画がある。

5 意見交換等

（鈴木委員）

- ・資料の購入費等、新しいことができる余裕はどれ程あるのか。予算等を教えてほしい。

（吉田委員長）

→併せて、収蔵資料数の経年変化も提示して頂きたい。

→資料4（P.9,10）に事業費支出が提示されているが、次回検討会にて詳しく整理したものを提示する。また、収蔵資料数の経年変化も提示する。（生涯学習担当部長）

（平川委員）

- ・現在、博物館や資料館は予算が厳しい状況にあり、計画的な寄贈寄託も重要である。また、公的な博物館、資料館が市民の信頼を得て寄贈寄託を受けるということは重要なことである。各館の寄贈寄託の現状も提示して頂きたい。

→寄贈寄託の現状について、次回検討会にて提示する。（生涯学習担当部長）

（末崎委員）

- ・収蔵数の変化と併せて、収蔵庫の容量、外部倉庫の利用状況を提示して頂きたい。

（西野委員）

- ・各館がどのような告知、宣伝を行っているのか提示して頂きたい。

（長島委員）

- ・各館とも素晴らしい資料が収蔵展示されているにも関わらず、子どもたちが目にする機会が少ないのが残念である。子どもたちが興味を持つようなPR方法が必要である。
- ・まずは、教育機関が興味を持ち、少し遠くでも来場してくれることが重要である。
- ・現代の子どもたちはインターネットで簡単に歴史を調べることができるが、それだけである。インターネットにはない、手に触れて学べるような工夫も必要である。

（平川委員）

- ・入場者数の推移は属性別（小学生・中学生、親子、団体等）のデータを提示して頂き

たい。

→入場者数の推移の属性別データについて、次回検討会にて提示する。(生涯学習担当部長)
(嶋田委員)

- ・各館が新聞等にどれ程取り上げられているか、新聞等と提携している内容など、お金の換算できないものも大切である。メディアへの表出度といったデータを提示して頂きたい。

(末崎委員)

- ・今や、どの施設も広告費の予算はほとんどない。

(澤野委員)

- ・各館で人気のあった企画展、成功した理由等も併せて提示して頂きたい。

→次回までにできる範囲で資料をまとめてほしい。(吉田委員長)

(嶋田委員)

- ・わかりやすく多くの市民が訪れるものが求められる一方、公的な博物館や資料館として、人気にかかわらず行わなければならない展示というものがあるはず。来場者の確保だけが目的になってはならない。その峻別をこの委員会で行うべきかは別問題であるが。

(桧森委員)

- ・収蔵品の価値にも市民は興味があるだろう。サザビーズに出したらいくらもの値がつくものか知りたい。

→個別の評価はしていないが、寄贈された時の総合評価はしている。但し、その金額を出せるかは検討が必要である。(生涯学習担当部長)

6 その他

第2回横浜市文化財施設のあり方検討委員会

日時＝平成23年8月4日(木)14:00～17:00

場所＝横浜市歴史博物館